

農業農村支援センター

令和4年度

農業農村支援センター

1 概況

管内の農業は、標高約 1,200m の八ヶ岳山麓から 760m の諏訪湖周辺に至る地域において営まれており、八ヶ岳西麓地域と諏訪湖周辺地域に大別できる。

八ヶ岳西麓地域は、県下有数の野菜・花きの産地であり、夏期冷涼な気象条件を活かし、野菜ではキャベツ、だいこん及びレタスが指定野菜に、セルリー、ブロッコリー及びスイートコーンが特定野菜の産地指定を受けている。なかでもセルリーは、全国トップの産地として発展してきている。花きでは、キク、カーネーションを中心に多品目が栽培されており、県内の 3 割弱の生産額を占める大産地として発展している。

また、畜産は酪農が主体で、自給飼料（牧草）を活用した畜産経営が行われている。

一方、諏訪湖周辺地域では、水稻を基幹に果菜類（トマト、キュウリ）や花き（バラ、カーネーション）の施設化、団地化が図られている。果樹ではりんごが中心に生産され、主に観光農園で販売が行われている。

(1) 耕地面積

耕地面積は 5,923ha で、田は 3,288ha、畑 2,628ha となっている。

農家一戸当たり耕地面積は 121a で県平均 117a を上回っている。

市町村名	耕地面積(ha)	田(ha)	畑(ha)	農家一戸当たり 耕地面積(a)
岡谷市	215	74	141	48
諏訪市	609	398	211	72
茅野市	2,330	1,340	987	117
下諏訪町	49	25	24	40
富士見町	1,590	895	690	173
原村	1,130	556	575	200
合計	5,923	3,288	2,628	121
対前年比	100.0	100.1	99.9	—
県	105,200	51,900	53,400	117
対前年比(%)	99.9	99.0	100.0	—

注) 資料:農林水産省耕地面積調査(令和4年2月28日現在)

①原数を四捨五入したため、総数と一致しない場合がある。

②一戸当たり耕地面積の算出に使用した総農家戸数は 2020 年農業センサスによる。

(2) 農家戸数、農業従事者数、基幹的農業従事者等

管内の農家戸数は 4,905 戸で前回センサスの 82.4%であり、販売農家戸数は 2,174 戸で同 78.8%、自給的農家戸数は 2,831 戸で同 92.2%となっている。

農業従事者数は 5,286 人で前回センサスの 70.0%、基幹的農業従事者は 2,790 人で、同じく前回センサスの 70.0%であり、いずれも全県値より減少幅が大きくなっている。

(単位：戸、%、人)

市町村名	農 家 戸 数			農 業 従事者数	基幹的 農 業 従事者
	総農家数	販売農家	自給的 農 家		
岡谷市	448	65	383	158	96
諏訪市	846	319	527	797	412
茅野市	1,999	925	1,174	2,099	1,050
下諏訪町	124	15	109	46	25
富士見町	922	450	472	1,127	557
原 村	566	400	166	1,059	650
合 計	4,905	2,174	2,831	5,286	2,790
対前回比	82.4	78.8	92.2	70.0	70.0
県	89,786	40,510	49,276	102,706	55,516
対前回比	85.7	78.2	92.9	74.9	75.5

注) 資料：2020年農業センサス

①販売農家：経営耕地面積が30a以上又は農産物販売金額が50万円以上の農家

②自給的農家：経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家

③農業従事者数：15歳以上の世帯員のうち、調査期日前1年間に自営農業に従事した者

④基幹的農業従事者：15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として自営農業に従事している者

⑤対前回比：2015年農業センサスとの比較

(3) 令和3年の気象と農業生産状況

令和3年は、年平均気温は平年並みで、降水量が多く、日照時間は平年並みとなった。降雪量は平年並みだった。

4月下旬に強い霜が発生し、管内でも凍霜害が報告された。梅雨入りは6月14日頃で、梅雨明けが7月16日頃だった。8月中旬に前線が停滞し、記録的な豪雨となって管内でも農業災害が発生した。9月から11月は、平均気温は平年並、降水量は平年並みか少なめとなった。

水稻は、出穂直後の8月中旬の記録的豪雨により、内えい褐変病や白穂枯れが発生した。南信地域の作況指数は95で、着色粒や整粒不足で1等米比率は98%（2月末現在）となった。

野菜類は、春先の凍霜被害は少なかったが、セルリーの新病害やブロッコリー等のテンサイシストセンチュウによる被害が散見された。花きは、春先の低温により生育不良となり、トルコギキョウでは立枯病が多発した。果樹は、4月下旬の低温で凍霜被害が発生した。

(4) 農業等産出額（R2）

管内の農畜産物の産出額は、前年対比98.4%の145億円であり、米は同89.7%の28億円、野菜は同104.1%の68億円、花きは同96.0%の36億円となっている。野菜と花きを合わせると、産出額全体の約7割を占める。

水産業の産出額は、前年対比91.9%の8億円となっている。

(単位：ha、千万円、%)

種 類	作付面積	農業等産出額		
		農業等産出額	構成比	
農畜産物	米	1,998	280	18.3
	麦・大豆・雑穀	436	5	0.3
	果樹	88	20	1.3
	野菜	1,468	680	44.4
	花き	90	360	23.5
	きのこ	-	5	0.3
	畜産	-	100	6.5
	養蚕・その他	-	0	0.0
	計	4,080	1,450	94.8
水産業	-	80	5.2	
合 計	-	1,530	100.0	

注) 産出額は、県農業産出額に基づく地域振興局推計値

(5) 新規就農者の確保育成状況

市町村、JA等で構成する「諏訪地区就農支援連絡会」が中心になり、就農相談、就農計画の作成支援、新規就農後のフォローアップを実施している。令和3年度の管内の新規就農者数は8名（野菜7名、花き1名）であった。

また、円滑な就農を支援するため、新規就農里親支援事業を実施している。

最近の新規就農の状況（45歳未満）

（単位：人／年間）

年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 （計画）
人 数	16	11	13	8	14

新規就農里親農業者登録事業・里親活動支援事業の状況

（単位：人）

項 目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 （予定）
里親登録者数	35	34	32	29	26
里親研修者数	7	6	6	3	4